



台風 17 号に伴う出水と日吉^{ひよし}ダムの防災操作について

淀川水系桂川の水資源機構日吉^{ひよし}ダム（南丹市日吉^{なんたんしひよしちやう}町）流域では、台風 17 号の降雨により、9 月 29 日 20 時から 10 月 1 日 2 時までの総雨量が 93 mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、日吉ダムへの最大流入量は毎秒 160 立方メートルとなりました。

この出水に対して、日吉ダムでは今年初めての防災操作を実施し、ダムに流れ込む水の量より、ダム下流河川に流す水の量を少なくして、ダム下流河川の水位低減に努めました。

※防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的にため込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成 24 年 10 月 1 日

独立行政法人 水資源機構
日吉ダム管理所

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 ^{あらい せいすけ} 新井 誠輔
住 所：京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷 68
電 話：（0771）72-0171

国土交通省 淀川ダム統合管理事務所 副所長 ^{いのうえ ひしお} 井上 日志男
住 所：大阪府枚方市山田池北町 10 番 1 号
電 話：（072）856-3131

台風 17 号に伴う出水と日吉ダムの防災操作について

近畿の南海上を進んだ台風 17 号により、淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、9 月 30 日 16 時から 17 時の 1 時間の雨量が最大 16 mm を記録し、降り始めの 9 月 29 日 20 時から 10 月 1 日 2 時までの総雨量は 93 mm に達しました。

この降雨により、流入量が増加し、30 日 21 時 55 分には洪水量（毎秒 150 立方メートル）に達したため、今年初めての防災操作を開始しました。

30 日 22 時 28 分には流入量が最大（毎秒 160 立方メートル）となりました。同時刻のダム流下量は毎秒 54 立方メートルであり、日吉ダムで毎秒 106 立方メートルの貯留を行いました。

ダム下流の保津橋地点（ほつばし 亀岡市保津町下中島地先）では、日吉ダムの防災操作により、ダムが無い場合に比べて河川水位を約 14 cm 低減したと推定され、ダム下流河川の水位低減に貢献できたものと考えられます。

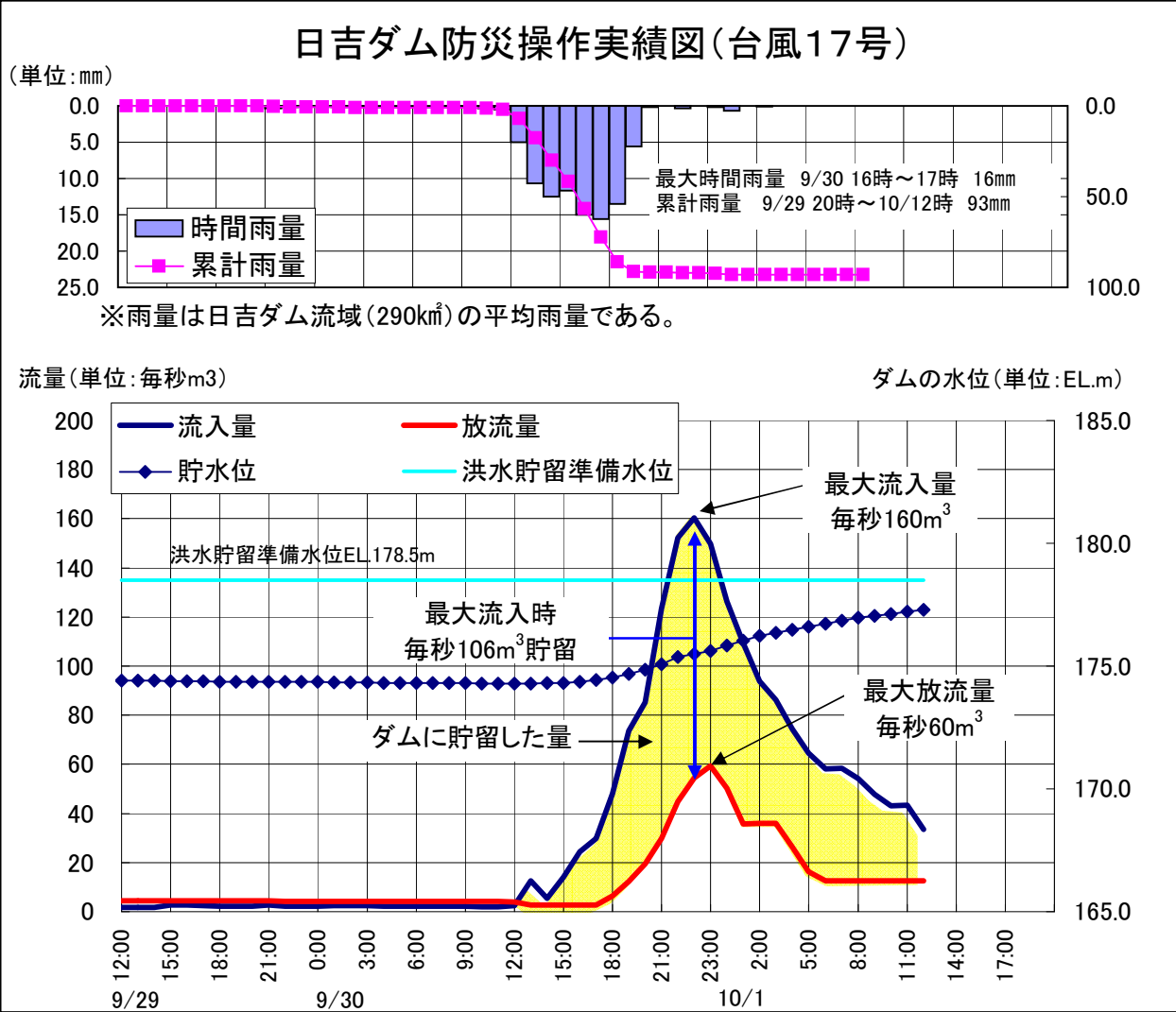
今回の出水により、64%（9 月 30 日 12 時）まで低下していた日吉ダムの貯水率は、89%（10 月 1 日 12 時現在）まで回復しています。

日吉ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、ダム効果発現に努めて参ります。

The map shows the study area in Japan, centered on Kyoto Prefecture (京都府). The study site (保津橋地点) is marked with a black dot and labeled in a white box. The map includes major cities like Kyoto (京都市), Osaka (大阪市), and Kobe (神戸市), and rivers like the Arima River (阿保川) and the Sagami River (相模川). A dashed circle highlights the study site area near the Arima River.

台風17号に伴う出水と日吉ダム防災操作について

・今年初めての防災操作を実施



日吉ダム管理開始以降(平成10年4月以降)の主な洪水の記録

区分	流域平均総雨量 (mm)	ダムへの最大流入量 (毎秒m ³)	ダムからの最大放流量 (毎秒m ³)
平成16年10月 台風23号	238	856	150
平成22年7月 梅雨前線	170	698	150
平成10年9月 台風7、8号	161	550	114
平成23年9月 台風15号	214	508	150
平成24年9月 台風17号	93	160	60

※上表は、日吉ダム管理開始以降、ダムへの流入量が大きかった上位4洪水と今回の記録です。

台風17号に伴う出水と日吉ダム防災操作について

- ・近畿の南海上を進んだ台風17号により、淀川水系桂川の日吉ダム流域では総雨量が93mmに達し、ダムへの最大流入量は毎秒160立方メートルを記録し、今年初めての日吉ダム防災操作を実施しました。この防災操作により、最大流入時に毎秒106立方メートルをダム貯水池に貯留し、10月1日12時現在までに、京セラドーム約3杯分に相当する約400万立方メートルの流水をダム貯水池に貯め込みました。
- ・ダム下流の保津橋地点では、水位上昇を約0.1m低く抑える効果があったと推定されます。
- ・今回の出水により、64%（9月30日12時）まで低下していた日吉ダムの貯水率は、約89%（10月1日12時現在）まで回復しています。



京セラドーム※約3杯分に相当する水を日吉ダムに貯め込み、少ない量を放流することでダム下流河川の水位上昇を抑え、貯水位の回復にも努めています。
(※京セラドームの容量を120万 m^3 として算出)

ダム堤体上流面



貯水位EL.174.55m:平成24年9月28日17時



約2.5mのダム水位上昇

貯水位EL.177.05m:平成24年10月1日9時

保津橋地点(保津川下り乗船場付近)での水位低減効果

保津小学校側

JR亀岡駅側

【日吉ダムの効果】

保津橋地点の河川最高水位を約0.1m低減

ダムがなかった場合 2.0m(推定)

水防団待機水位2.3m

約14cm

今回の出水による最高水位 1.9m